

2023-2024 理事通信



23年11月 アジア太平洋地域大会の際
(次期アジア太平洋地域会長 Joan Wong)

理事メッセージ

23-24 東日本区理事 山田 公平

「ワイズに変化を」求め続けて早4か月、何ができたか、どう考えるか

今期は、「東日本区のワイズ運動に変化を生み出したい」という思いで始まりました。この1年で私が目標8つを挙げて始まりました。9-10月に多くの部会が行われ、さてどこまで出来たか、出来なかったか、忙しさの中でなかなか動きません。部会は楽しく、すべてよし！という雰囲気でした。8項目の具体的な目標を挙げていますが、すべてが、ワイズに新しい力と意味を生み出すことを目指したものです。これまでの動きや成果をどう考えているか、皆さんと分かち合います。

目標1. ユースエンパワメントをワイズの看板に



YVLFにて発表の様子

「ユースエンパワメント」という言葉は、YMCA 世界同盟や日本 YMCA 同盟でもよくつかわれる YMCA が目標とする活動です。ユースを育成す Forum (YVLF) を9月4-6日に東京 YMCA 山中湖センター(キャンプ場)で行いました。「みつかる、つながる、よくなっていく」というテーマで、何ができるか、どうあるべきかを話し合いました。

contents

・理事メッセージ、目標1	1	・部長を経験して感じたこと	5
目標2	2	・今後の予定	6
目標3、4、5、6	3	・入会者、JEF 献金者	6
目標7、8、この2か月間のニュース	4	・パレスチナ緊急支援の依頼	6

2023年11月22日発行

もう一つの大きな事業は Asia Youth Convocation (AYC) です。アジア太平洋地域主催の 4泊5日の国際研修でネパールのカトマンズで行われました。東日本区からは13名のユースの参加があり、推薦クラブのサポート、部レベルからのサポート、さらには東日本区基金 (JEF) から各参加者への支援金が提供されました。参加したユースは皆、新たな国際体験を通して大きな自信を感じる体験となりました。



部大会にて AYC 報告の様子

来年から東西日本区合同で行われるユースアクションは、ワイズの看板になる事業です。今年秋に募集要項を準備し、来春 (2024年1月-2月) にプロジェクト募集をし、3月に10のプロジェクトを選考、実際のアクションが始まるのは来年の学校年度が始まる4月か5月からです。全国で10プロジェクトに助成金を提供します。このプロジェクトは、来年5月からの実施ということになりますが、その準備段階を今年度に行いますのでワイズの年度にすると2年がかりのプロジェクトになります。これから勝負です。東日本区では、タスクチームを設け、西日本区と協議しながら進める予定です。今から、どんなユースグループがこれに関心を持つかなど是非ともクラブで、部で、YMCAと共に考えて下さい。



Y's x SDGs Youth Action 2024 アクションプラン募集中!

Y's x SDGs Youth Action とは

YMCAとワイズメンズクラブ (通称:ワイズ) が協働して取り組む事業です。全国には35の都市に200拠点以上のYMCA、140ほどのワイズメンズクラブがあります。そのYMCAとワイズがSDGsの定める地域課題解決に向けたユースの皆さんの活動に助成金 (各20万円まで) を提供いたします。審査のうえで、選ばれたユースグループが実施する活動に対して、その地域のスタッフが伴走し、地域の課題解決に向けた活動を共に推進しています。

Y's x SDGs Youth Action 2024

主催: 一般社団法人ワイズメンズクラブ国際協会東日本区
ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
公益財団法人日本YMCA同盟

●概要

ユース世代のチーム (高校生~35歳の3名以上) がSDGsの視点から各地域の社会課題解決に向けた活動をYMCAとワイズメンズクラブが支援し共に活動 (伴走) する事業

●応募期間

2023年11月15日~2024年2月10日
*終了後、オンライン企画プレゼンテーションを実施、書類及びプレゼンテーションの内容にて選考

●活動期間

2024年5月~12月 (8ヶ月間)

●企画プレゼンテーション (オンライン)

2024年3月17日 (日) 13:00~

●選考チーム数

最大 10 チーム

●支援額 (活動資金)

最大 20 万円/1チーム



【問合せ先】 Youth Action 実行委員会

Email: youth-action@japanymca.org

一般社団法人ワイズメンズクラブ国際協会東日本区・ワイズメンズクラブ国際協会西日本区・公益財団法人日本YMCA同盟



募集要項添付しています。

詳細は [こちら](https://sites.google.com/japanymca.org/youth-action2022/) から (https://sites.google.com/japanymca.org/youth-action2022/)

目標 2. 独自の (Youth Led Project) ユースレッドプロジェクトの展開も

上のユースアクションとは別に、小さい規模であっても、東日本区では4-5か所のユースレッドプロジェクトを行います。例えば北海道には3つのクラブがありますが、その中でいくつかのクラブとYMCAでユースアクションに取り組みたいと計画しています。小さい規模の学生YMCAでもいくつかこのプロジェクトに挑戦してもらいたいと思います。



部大会にて活動報告の様子

ユースの変化や喜びを少しでも多くの地域で感じてもらいたいです。2024年6月1日は東日本区大会を北



■ その他 FAQ や、応募要項・応募用紙はこちらまで。

Y's x SDGs Youth Action 2024 サイト



#YS ユースアクション



SDGs とは

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

海道帯広で行います。その時の目玉としてユース事業の北海道版の報告と協議をしてもらいたいです。ユースアクションやユースレッドプロジェクトを通して学Yとの関係を築きあげるきっかけになることを望んでいます。

目標3. 福島と長野に YMCA を「ワイズと YMCA のエクステンション」

福島県や長野県には YMCA がありません。今ワイズがある長野市や松本市で YMCA 運動を興す、そんな働きを支えるワイズを強化するという当初の目的をこの年に目指そうと検討を始めました。YMCA の会館を持つことや専属のスタッフを置くということではありません。9月2日の北東部会は福島市で行われ、現地で YMCA にかかわりを持っていた個人や教会と話し合いました。長野クラブと松本クラブの関係者とは、10月21日のあずさ部会の後に話し合いました。10月9日には、盛岡で行われた東日本地区総主事会議で総主事の方々と長野、福島など YMCA のない地域での YMCA について話し合いました。これからのきっかけとして地元の関心を生み出す講演会や話し合いの機会を設けること、あるいはチャリティーランなどのイベントを行い、そこで得られた資金を使って障がい児とのキャンプを近くの YMCA と協力してできないかという話しも出てきました。長野でも松本でも可能性はあるのはという話になっています。夢を語るだけにせず、確実に前進できるための話し合いを進めるつもりです。

目標4. クラブライフを意味あるものにしていくために

各クラブでクラブライフをさらに楽しくする、クラブが目指すものを分かりやすくする、そしてそこに人を誘えるようにする、それがクラブライフをより良くする発想の原点かも知れません。「それをするために何ができるか」を考えてきましたが、答えは前述のユースエンパワメント事業の促進をというだけでなく、各クラブで行う CS 活動をもっと充実させる、そのためには資金も可能な限り投入すべきという考えが、法人推進委員会から出てきています。小さいクラブだけでは難しい場合には、近隣のクラブと合同例会にして、講演会を実施し、そこからできることを検討していくという発想も少しずつ生まれつつあるように感じます。



目標5. 地域での活動、国内での活動を充実したものにすため

これまでユースアクション、CS 活動充実への取り組み、国際イベントの実施などが出てきています。それらをより意味のある形にするためには資金が必要です。資金集めをしっかりとる、支えたい活動やクラブで取り組みたい活動があれば、それに必要な資金を集める工夫をしていくことが大切です。応援できるところに資金面で応援するという活動です。資金集めの充実がクラブ単位で、地域で、YMCA との協働事業として取り組んでいくようにしたいと思います。これらを法人推進委員会を中心に協議をしています。

目標6. 国際・交流活動の具体的展開の一步を

ワイズの国際活動には BF (Building Fellowship)、TOF (Time of Fast)、交流活動として IBC (International Brother Club) などがあります。この国際的関係をより身近に感じるような仕組みを作る必要を感じています。例えば、ある特定の国のクラブや YMCA と組んで一緒に TOF のプロジェクトを作り、そのクラブや YMCA と BF で人の派遣や現地のワイズメンを招いたりもできます。それが IBC となって交流や協力を継続的にすることもできます。国際活動はワイズの特徴となりうる活動ですが、具体的な展開を今後の国際交流事業委員会に検討と実施への仕組みを作ることを検討しようとしています。来年度の計画として国際ネットワークを活用してワークキャンプを検討してみようという国際交流事業委員会で話し合われました。



アジア太平洋地域大会の際の IBC 調印式
(仙台青葉城クラブ×ネパールルンビニクラブ)



アジア太平洋地域大会の際の IBC 調印式
(川越クラブ×所沢クラブ×フィリピンパンガシナンクラブ)

目標 7. iGo (ユースのインターンシップ) を国内で始める工夫を

iGo というプログラムは、Internship for Global Outreach の略で世界に羽ばたき、活動したいユースのインターン制度です。これは、ユースが1か月程度海外の YMCA 活動などにインターンとして送り出す制度です。そんな新たな活動を国内でのインターン制度で出来ないものか検討を始め、来年度以降のユース事業として検討を始めようと考えています。このプログラムこそ、ワイズと YMCA ができる協働事業になるのではないのでしょうか。実習を受け入れる地域のクラブは、実習生のホームステイ、例会への招待など、実習中のユースを支えることとなります。



目標 8. 将来のワイズを一緒に考え、話し合い、提案していきませんか？

東日本区 チーム・イノベーション (旧称：将来構想検討チーム) が 9 月に 8 名の若手の委員で始めました。ワイズのこれからの在り方、10 年後にはこうなってほしいというビジョン、中長期的目標や計画、そしてそのための戦略を提案していくこととなります。ワイズの強みや弱みを見極め、そこから将来ビジョンを描いていきます。来年 4 月に行われる第 3 回役員会を一つのターゲットにしていくことになりました。

4

この 2 か月間のニュース

部大会開かれる：北海道部 (8 月) に始まり、9 月には北東部、10 月に入り東新部、富士山部、あずさ部、関東東部、そして 11 月には湘南・沖縄部が行われる予定です。交流と学びの場になり、他クラブや西日本区からの参加もありました。



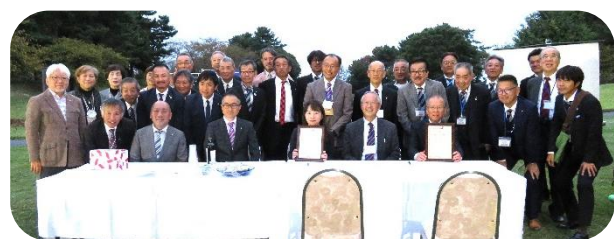
あずさ部大会



関東東部部大会



富士山部大会



富士山部大会の際の DBC 調印式
(伊東クラブ×京都プリンスクラブ)

2023年11月22日発行

エルマークロウ賞受賞および国際ブースター賞受賞者：昨年度期の東日本区部長の中から2名のエルマークロウ賞が授与されました。一人はあずさ部富士五湖クラブの後藤明久直前部長であり、もう一人は東新部の深尾香子直前部長でした。顕著で意欲的な貢献をされた部長としてこの荣誉あるエルマークロウ賞が贈られました。佐藤直前理事がそれぞれの部会の中で表彰盾が送られました。また、国際会長表彰の会員増強ブースター賞が2名のワイズメンに贈られました。甲府やまなみクラブ設立に当たり、6名入会者を紹介された仙洞田ワイズと4名入会者を紹介された藤原現会長にメダルが贈られました。



あずさ部大会の際の授賞式の様子



東新部大会の際の授賞式の様子

第30回アジア太平洋地域大会：11月3-5日、香港で開催され、総勢360余名の参加を得て、盛大に行われました。東日本区の利根川恵子さん（川越）がArea Presidentであり、田中博之さん（東京多摩スマイル）は今大会の実行委員長を務めました。外国からの参加者の中で一番多く参加したのが東日本区で総勢52名でした。2泊3日という短い期間でしたが、バスツアーもあり、会食など楽しい交流ができました。



アジア太平洋地域会長の利根川さん



東日本区理事の山田さん

5



次回のアジア太平洋地域大会は熊本にて開催



東日本区の出し物（獅子舞い、歌）

「部長を経験して感じたこと」

東新部直前部長 深尾香子（東京多摩スマイル）

現状の課題と感じたこと、

ワイズの将来を見据えた時に繰り返し使われる「会員減」「高齢化」「昔に較べて楽しくない」というキーワードは、私の経験(=ワイズ入会前から現在も自治体、社会福祉協議会等と協働する幾つかの市民活動に参加中)に限っても、同様に課題となっている。一般市民が立ち上げる団体は、コアメンバーの人生と重なるように20~30年をひと世代として、生まれては消えて行く。我々が、100年の歴史を重ねていると言いながら彼らと同じ課題に直面しているかのように見えるのは、一つ一つのミッションを達成したから。と考えれば

合点が行く。先の市民団体を例にとれば、ここで解散するのは自然の成り行きとも言える。



東新部直前部長 深尾さん

れば

しかし、懇親というもう一つの柱は誰にとっても魅力的であるため、直ぐに解散とはいかず、次の課題が見つからないという声や、未だ活動途上にありながら引き継ぐべき担い手を見い出せていないという声にも繋がっている。ワイズは誠実な人々の集まりである。もう少しアンテナを高くすれば見えて来るのにと残念に思う。

部長活動計画に《会長会》《Y友広場》の月例開催を組み込んだのは、これらを解決する手立てであった。リアルはもちろんだが、Zoomを利用してでも対話が全てのキッカケになる。それが互いの信頼を呼び、次には、知恵の持ち寄り、蓄積を期待出来ると信じたからであった。年度が改まったばかりの7月初め、一つのクラブの解散予告が、理事からの電話で知らされた。「現状を把握セヨ。」「存続の手立てが無いのか協議の可能性を探セ。」そこから会長や担当主事に電話をする、訪問する、話し合う、部に持ち帰って共に考える、理事への連絡と次の対策を相談...地味な活動ではあるが、部長の役割はここにこそあると覚悟して日々を過ごした。存続が決まった時は安堵した。《会長会》が共有の場になったことも当初の予想を超えた成果になった。

周囲の反応

共有の場を多くしても、「部」として進めない事もあった。今は自らの絆を確認し、再び活動するための力を蓄える時間であって、社会課題を自分事とするまでには至っていない。結果、会員を増強する理由が無いことも認めざるを得ない。会員を増やす努力は各クラブによる独自の活動の力に頼っている。

もっと出来た事は

世間で老舗と呼ばれる企業や団体は、守るだけでなく、常に新たな一歩を考えているものである。会社員出身が多く地域課題との接点が無い都市型ワイズは、ライフステージの変化に伴い転会が容易になるなど、一人一人が地域のキーマンとなり得る成長を期待したい。また組織の存続を求めるのではなく、組織で何をやるのか原点回帰して考え直したいと思う。私自身もコロナ禍で300年続く本業に大きな変革が有った。苦しい今こそ、新たな試みに挑戦する好機に違いない。

今後の予定

- 11/25 湘南・沖縄部部大会（湘南とつか YMCA）
- 12/16 次期部長・事業主任研修会（ズーム）
- 1/10 後期半年報提出（部へ）
- 2/15 後期区費支払い 各種献金納期（クラブから部へ）
- 3/9-10 次期会長・部役員研修会（東山荘）
- 4/13-14 第三回役員会（四谷同盟会館）

入会者一覧

9月・10月

入会日	部	クラブ	入会者	紹介者・他
9月25日	北海道	十勝	脇坂芳広	山田敏明
9月25日	北海道	十勝	増中智宏	山田敏明
9月27日	湘南・沖縄	厚木	植木陽子	小松仲史

JEF 献金

9月・10月

献金日	献金者	クラブ		金額
10月5日	那須クラブ	那須クラブ	田村修也ワイズの奈良傳賞の受賞記念	20,000

パレスチナ緊急支援の依頼

東日本区担当主事 大澤篤人（茨城）

パレスチナ情勢が悪化の中、日本の YMCA としてパレスチナ緊急支援募金を開始いたしました。

イスラエルとパレスチナには3つの YMCA（ガザ YMCA、東エルサレム YMCA、エルサレムインターナショナル YMCA）があり世界 YMCA 同盟と状況の共有をしております。

東エルサレム YMCA からは緊急支援の要請、それを受け世界 YMCA 同盟総主事（カルロス氏）より緊急支援のアピールが発信されました。

これを受け日本の YMCA では緊急支援募金を開始いたしました。期間は一旦、11月30日としておりますが、このあとも継続して行く可能性がございますので、その点もお含みおきいただければと存じます。

詳しくは以下の URL をご覧ください。

※パレスチナ緊急支援募金受付中



<https://www.ymcajapan.org/topics/20231101/>

※日本 YMCA 同盟 寄附のご案内 【パレスチナ緊急支援募金 2023】

<https://srv.asp-bridge.net/ymca/privacy/3>

※東日本区としても、日本 YMCA 同盟と連携してパレスチナの皆さんに対する支援活動を始めます。

下記口座に「パレスチナ」と記載の上、送金をお願いいたします。

ゆうちょ銀行からの振り込み ゆうちょ銀行 口座記号番号：00110-0-362981

他の金融機関からの振り込み ゆうちょ銀行 019 支店（当座）0362981

口座名義は「ワイズメンズクラブ国際協会東日本区」です。